

【取扱い厳重注意】

平成24年5月14日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員 三田 浩平

平成24年5月14日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

原子力安全・保安院付 西山 英彦（現環境省福島除染推進チーム次長）

2 聴取日時

平成24年5月14日午後3時50分から同日午後4時20分まで

3 聴取場所

経済産業省別館11階1115室

4 聴取者

事故調査委員会事務局 高嶋参事官、三田主査

5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

第2 聴取内容

保安院プレス発表について

別紙のとおり

第3 特記事項

特になし

【取扱い厳重注意】

別紙

1 保安院プレス発表（第20報）

平成23年3月13日午後5時15分頃からの保安院プレス発表（第20報）において、記者から「1・3号機の燃料棒は溶けており、放射能は漏れているという認識でいいか」旨質問され、私（西山英彦）は「微量だがそう認識している」と回答した。その理由について、はっきりとは覚えていないが、水素が発生しているのは、被覆管のジルコニウムと水が反応していることが原因であると考えているので、1号機については、3月12日に水素爆発していたことから、少なからず炉心が溶融していたと認識していたのだと思う。3号機についても、理由はよくは覚えていないが、今思い返してみると、13日午前中から3号機原子炉水位がTAFを切る状況が続いていたことなどから、3号機も1号機と同じような状況になっていたかと思っていたのかもしれない。

また、同プレス発表において、「炉心の状況はデータからははっきり言えることではないため、溶融しているかどうかは分からない」旨説明したと思う。

2 炉心溶融の可能性に係る説明

平成23年3月14日午前9時15分頃からの保安院プレス発表（第22報）において、記者から「炉心溶融も1個の可能性としてはあるということですか。」と質問され、私は、可能性がないとは言えないので、「そうですね。」と回答したが、その後、同プレス発表に同席した保安院職員が、「まだ溶融とかそういう段階では決してないと思っております。」と説明した。誰が発言したのかは覚えていないが、おそらく、12日の保安院プレス発表において、中村審議官が「炉心溶融」と説明したことにより新聞などで「炉心溶融」と大々的に取り上げられた後だったので、その保安院職員は、私が「炉心溶融」の可能性に触れたことについて、マスコミから実態以上に危険な状況であると誤解されるような取り上げられ方をされてはいけなと懸念したことから、「まだ溶融とかそういう段階では決してないと思っております。」旨説明したのだと、私は思う。その保安院職員の説明は不適切だったかもしれないが、私の役目はプレス発表を円滑に進めることであり、その保安院職員の説明について記者から何も指摘されなかったため、その説明について特に気にすることもなくプレス発表を進めた。

また、平成23年3月14日午後4時45分頃からの保安院プレス発表において、記者から「水素が出ているということは溶けているということですから、溶融でいいですね。」と質問され、私は「損傷の段階でも水素が出る場合もあると考えられますので。」と回答したが、その後、同プレス発表に同席した保安院職員が、「水素との関係で言いますと、燃料、被覆材の部分と反応して水素が出てきているということでございますので、溶融という言葉では適切ではないのではないかと思います。」と説明した。そのことについても、私は、先ほど述べた第22報の保安院職員の説明と同じような理由で、訂正することなくプレス発表を進めたと思う。

以上